

平成28年度 県立芦屋国際中等教育学校 学校評価シート(年度末評価)

<p>【教育の特徴】 一般の中学校・高等学校にあたる前期課程・後期課程の6年間を通じて、異なる言語環境や文化的背景のもとに育った生徒が、能力や適性に応じて弾力的に学ぶ中高一貫校として、教育活動を展開する。</p> <p>【学校教育目標】 (1) 言語環境や文化的背景の異なる子どもたちの相互啓発により、共に生きる心をはぐくみ、多文化社会に生きる人間形成を図る。 (2) 個に応じた指導の充実により、基礎・基本を確実に身につけ、それを基に自ら学び、考え、判断し、行動する力を培う。 (3) コミュニケーション能力や異なる文化を理解・尊重する態度など豊かな国際感覚を備え、国際社会に貢献できる力を育てる。</p> <p>【学校経営の重点】 (1) 個に応じたきめ細かな支援 ① 自己実現への支援 生徒の滞在国外や出身国等の言語や文化の学習機会を提供するなど、自尊心や自己肯定感をはぐくむとともに、豊かな共生の心を培い、自己実現を図るための支援を行う。 ② 弾力的な学習支援 少人数指導や個別指導など、6年間を通じた弾力的なカリキュラム編成を行い、日本語や日本文化の理解の程度、海外での生活で身につけた語学力や教科内容の理解等に応じた学習支援を行う。</p>	<p>③ 主体的な進路形成の支援 自主体験活動の充実を図るとともに、語学に関する資格試験に対応する学習指導を含め、生徒の個性を生かした資格取得を支援し、後期課程においては取得した資格を単位として認定するなど、生徒の達成感や充実感を引き出す取組を通して、主体的な進路形成を支援する。</p> <p>(2) 豊かな共生の心を培う教育の推進 ① 心の教育の推進 道徳教育、人権教育、特別支援教育を推進する委員会を定期的に開催するとともに、教育相談・カウンセリングの充実を図りながら、生徒や保護者の悩みを受け止め、学校と保護者が連携して、命を大切にしたい心の教育を推進する。 ② 交流活動の推進 地域の学校や国際交流協会、国際協力機構(JICA)などの関係機関と連携・交流を図り、多様な学習環境を創造する。 (3) 開かれた学校づくりの推進 ・ 学校の教育目標や指導計画、生徒の学校での学習内容や生活の状況などを保護者等に積極的に伝えるとともに、保護者等からの情報を得られやすい学校・家庭・地域との関係づくりを推進し、お互いに協働と連携を図りながら教育活動を展開する。</p>
--	--

【本年度の重点項目】

	領域	重点目標	中間評価			成果・改善点	年度末評価			評価	学校関係者評価・意見
			点	割合	評価点平均(昨年)		点	割合	評価点平均(昨年度末)		
1	情報発信とコミュニケーションの充実	必要な情報を事前に知らせることができた。	5	8.4%	3.1(2.8)	<ul style="list-style-type: none"> 「進路だより」を中心にして特に6年生とその保護者に対して1年間のビジョンを示すようにした。 生徒たちが常に見直しをもって計画を立てたり行動できるよう、必要な情報を事前に知らせようと努めた。 全ての必要な情報を知らせることができたか、自分で把握できているかが不安。 知らせはしているが確認はできていない。 次期学習指導要領でも求められている「アクティブ・ラーニング」について職員研修を行った。 生徒には集会活動や総合的な学習の時間等を利用し、保護者には懇親会等でお伝えした。 各委員会・部会での情報を全教員に流せないことがあった。 管理職や他の専門部との意思疎通や共通理解を図るのが大変困難。一部の職員に仕事が集中している。 生活支援部と学年が協力して生徒情報を共有し方向性を定めることができた。 特に教員間でコミュニケーションが図られていないように思う。 生徒とのコミュニケーションを生徒理解のために十分行いたいと思っはいるが日々の忙しさに追われ、不十分な部分がある。 ネットワークの正常な状態が維持できている。 積極的にほめたりアドバイスをすることができた。頑張った生徒については担任にも伝えることができた。 大きな学年行事や学校行事の際には学級通信を通して保護者へ子どもたちのがんばりを伝えることができた。 学校保健委員会に学年が入ることが必要だと思われる。 授業冒頭において本時における取り組みめあてを示すことができた。 使用するプリントに授業のねらいを明記した。 毎時間目標を提示するのは難しかった。 昨年度課題にしていた目標の板書化に意識して取り組んだ。 小テストの相互採点や説明をはじめ、発問の仕方などで常に参加型の授業をめざした。 特にALTとのチーム・ティーチングの授業ではプロジェクト活動を取り入れ生徒が主体的に考えアイデアを出して活動できるようにした。 いつも生徒に問いかけの授業をしているが授業が騒がしくなることもあり苦慮している。 5年次以下は生徒の成熟度が低く一方的に教え込まなくてはならない現状がある。 習熟度が様々なので常に生徒の実態に合わせた教材選び・活動選びを心がけることができた。 初めて前期課程の授業を担当し、教科書を見比べながら効果的な授業の在り方を考えた。 後期のみを担当でありかつ前期とのつながりを意識する段階ではない。 単元に応じてプリント等のレベル、内容を変え、生徒の定着度に応じて、解答の仕方、集め方などを変えた。 6年次は受験、4年次は基礎、3学年は中学総まとめという到達目標を意識して授業した。 学力の幅がある中でどこに標準を置くか常に意識して授業を行った。 指導訪問で研究授業を実施した。 4月、11月に公開授業を行った。 日頃の授業をいつでも見てもらおうようにしている。 	5	9.0%	2.9(3.0)	C	<ul style="list-style-type: none"> 教員全体の意識は向上しているが、資質向上という点からも「生徒指導の実践に関する教員研修等の企画・実施」の評価が低いのは気になる。教員全体でなくても少人数で、時機をみてやればいいのでは。 難関大学合格者が出ており、進路実績もいい結果が出ている。ただ、部活動の充実や異文化交流なども活発に行い、あまり受験指導に偏らず、バランスの取れた学校であり続けて欲しい。 国際社会で活躍する人材を育成するためには英語をはじめ、学力をしっかりとつけてほしい。 アンケート結果から、ほとんどの保護者が我が子を本校に入れてよかったと思っている。この事実や進学実績をもっとPRしてもいいのでは。 国際と名がつくこともあり、保護者の英語教育に対する要求は高い。本校の特長を生かして各言語や英語の授業などでもっと外国の学校と相互交流できないか。 熱心な指導を継続し徹底して欲しい。また、地域に活かされているということを忘れず、今後も地域との連携を深めて欲しい。 卒業生が国際的にも活躍し人と人を繋ぐ役割を担う人材の育成を期待する。本校生が社会に出てこれから何ができるかを考えていくことが重要である。 保護者への言葉の影響力の大きさを意識して欲しい。 本校の強みを生かしてオンリーワンの学校であり続けて欲しい。 同窓会の活発な活動を期待している。特に、本校卒業生の就職先の調査、情報発信をお願いしたい。
			4	40.3%			4	42.3%			
			2	50.4%			2	47.7%			
			1	0.8%			1	0.9%			
		5	4.3%	5	7.3%						
		4	36.8%	4	44.0%						
		2	57.3%	2	46.8%						
		1	1.7%	1	1.8%						
		5	4.2%	5	5.4%						
		4	42.4%	4	46.8%						
		2	52.5%	2	44.1%						
		1	0.8%	1	3.6%						
		5	1.7%	5	3.7%						
		4	35.3%	4	42.2%						
		2	60.3%	2	52.3%						
		1	2.6%	1	1.8%						
2	授業力の向上と学習指導の充実	各授業時間(間)の目標を明確に示すことができた。	5	2.9%	3.1(2.9)	5	8.8%	3.2(3.0)	B		
			4	51.4%		4	47.1%				
			2	45.7%		2	44.1%				
			1	0.0%		1	0.0%				
		5	2.9%	5	8.8%						
		4	57.1%	4	61.8%						
		2	37.1%	2	29.4%						
		1	2.9%	1	0.0%						
		5	3.1%	5	12.9%						
		4	56.3%	4	32.3%						
		2	37.5%	2	54.8%						
		1	3.1%	1	0.0%						
		5	5.7%	5	11.8%						
		4	40.0%	4	52.9%						
		2	54.3%	2	35.3%						
		1	0.0%	1	0.0%						
		5	0.0%	5	6.9%						
		4	19.2%	4	20.7%						
		2	57.7%	2	62.1%						
		1	23.1%	1	10.3%						

【専門部の業務評価】(昨年度末)

(1)総務部		
項目	平均	評価
企画・運営	3.8 ^(3.4)	B
入学者選考等	4.0 ^(3.3)	A
渉外・PTCA・他校等	3.7 ^(3.1)	B
広報	3.7 ^(3.3)	B
国際交流	3.7 ^(3.0)	B
防災	3.3 ^(3.0)	B
庶務	3.6 ^(3.2)	B
データ整理・管理	4.0 ^(3.0)	A

(2)学習支援部			
教務	項目	平均	評価
	教務	教育課程等	4.6 ^(4.0)
時間割		4.3 ^(4.0)	A
学 籍		4.3 ^(3.3)	A
調査・統計		4.3 ^(3.0)	A
教科書・教材		5.0 ^(3.3)	A
新入生テスト			
学習状況調査・授業評価		5.0 ^(3.0)	A
全国学力・学習状況調査		5.0 ^(3.5)	A
定期考査・データ処理		5.0 ^(3.5)	A
三者懇談			

(3)生活支援部							
生徒指導	項目	平均	評価	保健	項目	平均	評価
					生徒指導全般	4.0 ^(3.5)	A
生徒会活動	4.4 ^(3.7)	A	教育環境整備	4.0 ^(3.0)	A		
教育相談	5.0 ^(3.2)	A	項目	平均	評価		
安全指導	4.5 ^(3.8)	A	人権教育	4.0 ^(2.8)	A		
庶 務	5.0 ^(3.0)	A	道徳教育	4.0 ^(3.0)	A		
式場準備	5.0 ^(3.0)	A	項目	平均	評価		
関係機関等との連携	4.6 ^(3.2)	A	ネットワーク管理	4.7 ^(4.7)	A		
部 活 動	4.3 ^(3.0)	A					
特別指導	5.0 ^(3.0)	A					

＜学校評価の改善について＞

平成23年度の学校評議員会での協議を受けて平成24年度より学校評価を以下の通り改善し、今年度も継続している。

- 学校評価の評価項目
評価項目を減らし、重点目標に係る項目のみとする。
- 部署ごとの取り組み
担当業務について個々の業務内容について評価を行った後、合算して評価する。
- 学校評議員会・学校関係者評価委員会では、重点目標に係る評価のみを協議し、部署ごとの取り組みについては、報告とする。(ただし、著しく評価の低いものについては、次年度の重点項目の一つとして協議する。)
- 年度末の学校評価シートについては、重点目標と部署ごとの項目の評価を記載する。